

仙台市の音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備でシンポ

芸術と災害、市の未来議論

建築家と評論家、市長が意義語る

仙台市が青葉山エリアに整備する音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設計画について、その在り方を考えるシンポジウム（仙台市主催）が先月、日立システムズホール仙台（市青年文化センター）であった。市出身の音楽評論家で政治思想史研究者の片山杜秀慶大教授が特別講演を行ったほか、郡和子市長や設計者の建築家藤本壮介氏が登壇し、トークセッションを行った。複合施設整備アドバイザーの本江正茂東北大学院准教授（建築デザイン）がファシリテーターを務めた。



「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設」の交流イベントロビー（完成イメージ）

「世界に向け発信を」

片山氏は参加した市民ら2000人を前に、「芸術と災害と」と題して講演した。シェークスピアの4大悲劇やムンクの絵画「叫び」などを例に挙げ、「優れた芸術を通じて、人は（災害などの）悲しみや喪失について訓練

し、学び得る」と芸術

の役割について説明した。関東大震災後、音楽には慰めと励ましの

力があるという認識が広がり、クラシック音楽と市民の結びつきが

強まったとも述べた。その状況を背景とした

新交響楽団（現NHK交響楽団）の誕生が、



郡市長（右）、設計者の建築家藤本氏、片山慶大教授らがトークセッションで会場からの質問に答えた

を紹介した。

また、広島市の例に触れ、「広島市平和記念公園は、音楽ホールでもある国際会議場や歴史の記憶を伝える平和記念資料館、慰霊施設などがトータルコーディネートされていることで、未来に向けた強いメッセージを世界に発信できる場となった」と、複合することで生み出される価値、意義を強調した。

次に、郡市長が施設の意義やもたらす価値について説明した。震災復興の過程で文化芸術が力を発揮し音楽ホール建設の機運が高まってきた経緯や青葉山エリアの重要性を挙げ、整備に理解を求めた。

大阪・関西万博の「大屋根リング」の設計者としても知られる藤本氏は基本設計について解説。「音楽や演劇、そして災害に関わるさまざまな活動が一つに『響き合う場』をイメージした」と述べた。

市長プレゼンテーション

郡 和子市長

文化芸術が災害を乗り越える力となり、日常を豊かにするのだということを、次世代に引き継いでいくことは私たち世代の責務。音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点を複合することで仙台から新たな都市文化を創り出し、発信と地域間交流の拠点としたい。運営にあたってはさまざまな世代、立場の皆さんが参加する市民共創型で進めていく。市民それぞれの思いが共存する「たくさんの響き」が、時にはつながり「ひとつの響き」に連鎖し、人が結びつき、過去と未来が結びつく拠点であってほしい。

この複合施設は、挑戦を続ける杜の都仙台の新たな象徴。一人一人を尊重しながら、未来をよりよく生きるための文化を創造する場であり、未来を開く場として整備していきたい。



基本設計のコンセプト

藤本 壮介氏

音楽ホールと災害文化施設が共存する世界に類がない存在だ。東日本大震災からの復興の過程で、それぞれの人が培ってきた経験や思いを大切にしながら、深めつつ時には一つにまとまることのできる場をイメージした。音楽をはじめさまざまな表現の場となるような、災害文化も含めて一つに「響き合う」ことができれば素晴らしい。

ロビーは4階建ての吹き抜けになっていて、ほぼすべての部屋・設備がそこに面している。時にはロビーコンサートをしたりワークショップの場となったり、さまざまな可能性が考えられる。ロビーに沿って1階から上層階まで回遊できるデザインで、各階・各部屋で個々の活動を生かしつつ、つながれることを目指した。



コスト面も論点に

後半は、会場から質問を募ったのトークセッションを実施。片山氏、郡氏、藤本氏が登壇し、さまざまな質問に答えた。

「2000人規模のホール設置は仙台の音楽関係者の悲願。ぜひ推進してほしい」といった肯定的な意見が出た一方で、物価高騰と生活苦に触れつつ「芸術の力は否定しないが、今事業を進めるのは優先順位が違うのでは」といった厳しい声もあった。

「災害文化」の具体的なイメージについて、藤本氏は「演奏会やワークショップを通じて市民の交流が広がるのが、災害時の大きな力になるのではな

いか」と話した。

事業費の増大を懸念する質問も複数寄せられた。郡氏や市担当者らは、国の補助獲得に努めることや、設計段階から施工業者が計画に関わる「ECI方式」の導入で、事前調整による工期や工事費の圧縮効果が期待できることなどを説明した。

他に、年間来場者72万人で87億円の経



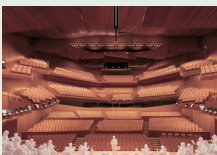
片山慶大教授が「芸術と災害と」と題して講演した



施設外観

■複合施設概要

所在地:仙台市青葉区青葉山
敷地面積:約1万8800㎡
建築面積:約1万600㎡
のべ床面積:約2万8900㎡
階数:地下2階、地上4階
建物高さ:29.5m
駐車場台数:一般用 約90台、他
に関係者用駐車場
竣工・開館時期:2031年度



大ホール



小ホール

■問い合わせ

仙台市文化観光局青葉山エリア複合施設整備室
TEL022-214-6139

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備事業の進捗状況など詳細は市のWEBサイトで確認を。シンポジウムのアーカイブ動画も視聴できる。

